

特別号  
「春宵一刻」



2017年2月25日入学試験当日の時計台前

## 定年退職者のみなさまへ贈る言葉

京都大学生協同組合理事長 若林 靖永

皆様におかれましては、永年にわたる京都大学でのご勤務、大変お疲れ様でございました。また、京都大学生協の運営への多大なるご協力についてありがとうございました。

定年を迎えられるにあたり、一言贈る言葉を述べさせていただきます。

京都大学生協は、食堂や書籍のみならずパソコンなどの勉強研究機器や共済、学生の学びを支援する事業にも力をいれるようになり、学生が参加する企画やイベントも多く取り組まれるようになりました。近年は中央食堂、西部食堂（ルネ）、北部食堂と耐震改修リニューアルと、学生、教職員の食を支える充実した施設改善が実現しました。そして2016年は吉田南の吉田ショップがリニューアルし、その2階に生協本部が移転しました。その後は、桂キャンパスでの事業の見直しに取り組んでいます。これらも、みなさんのご理解、ご協力によるものであり、組合員の組織である生協を支えていただきうれしく思います。また長い間、生協本部が置かれた花谷会館のこれからについても大学と協議しながらメモリアルとして支えていきたいと考えています。

さて、今日「人生90年」「人生100年」と呼ばれる超長寿社会が実現しつつあります。75歳からを「高齢者」と呼称しようという学会の提案もあります。まさにみなさんの人生はこれからと言ってもよいかもしれません。私は共同研究者と若林靖永・樋口恵子編『2050年超高齢社会のコミュニティ構想』（岩波書店、2015年）を出版しました。本書は、少子高齢化・人口縮小社会という、これまた人類史上いまだかつてない社会変化に直面するなかで、地域の再生を展望した新たな社会事業、プラットフォームの構築を提案したものです。変化する社会だからこそ、私たちはもっともっとやれること、やりたいこと、やらねばならぬことがあるように思われます。

それぞれの地域などで今後とも健康で、ご活躍、ご挑戦していただくことを期待しております。人生はまだまだこれからです。



西部会館ルネ (外線) 752-1587 (内線) 7632	吉田ショップ 752-1587	北部購買 753-7633 7633	南部生協会館 752-1586 7635	時計台生協ショップ・時計台旅行センター 753-7630 771-6289 7630 7639	宇治生協会館 0774-38-4388 17-4388	桂ショップ 383-7300
ブックセンタールネ 771-7336 7631	洋書 751-6183 7631	PCセンタールネ 753-7636 7636	コンベンション サービスセンター 753-7655 7655			

## 「虹」の彼方に

人文科学研究所 教授  
井波 陵一



学部によって事情は大きく異なるだろうが、文学部の私にとって、4年間の学生生活のうち、最も「充実」していたのは2回生の1年間だった。なぜかといえば、「無為」の時間がたっぷりあったからである。一般教養の必要単位は1回生のうちに揃えていたので、語学と体育、それに加えて、たしか俗にBコースと呼ばれていた文学部の2回生向け科目をいくつか受講すればよかった。高校の時から、大学では中国の長篇小説「紅樓夢」をテーマにしようと決めてはいたものの、卒業論文の作成などはまだまだ遠い先の話だったから、一応「棚上げ」のような状態にあり、とりあえずどこへ足を踏み出せばいいのか分からないまま過ごしていた。そうした時期に様々な刺激を与えてくれたのは、やはり同じクラスの

友人たちであり、その溜まり場になっていたのが、現在の吉田南生協会館2階にあった喫茶「虹」にほかならない。今から45年前、1973年のことである。

以下、おぼろげな記憶に頼って書くので、誤りがあるかも知れないが……。

「虹」の開店時間は9時半だったと思う。10時前まではまだお客も少なく、好きな席を選ぶことができた。カウンターでコーヒーとハンバーガーのモーニングセット(150円?)を受け取り、当然のように(!)タバコを吸いながら待っていると、一人、また一人と顔見知りか姿を現す(もちろん私が後からやって来る日もあった)。昨日の今日だからとりたてて話題があるはずもなく、また授業の関係で人は適当に入れ替わったものの、それでも会話は途切れなかった。「右手に『朝日ジャーナル』、左手に『少年マガジン』』と言われた時代はとうの昔に過ぎ去り、「真情あふれる軽薄さ」はたんに屍となって灰皿に積み重なるにすぎなかったにせよ、今から思えば、具体的に何かを得たわけではないあの時期が、それからの45年を支えてくれたと言えるかも知れない。

おっと、話を戻そう。昼休みになると、さすがに満席になる。「虹」にはカレーもあったが、人気があったのはスパゲティだったと思う。200円のミートソース、これはなかなかおいしくて、じつによく食べた(日伊会館の地下にあったレストラン「ミケランジェロ」のボンゴレにはさすがに及ばないものの、あれは学生がたやすく口にできるものではなかったから、比較の対象にはならない)。

あれこれのグループでにぎやかな館内が、不意に静かになることもあった。FM放送から井上陽水の「心もよう」が聞こえてきた時である。かぐや姫の「神田川」とともに「時代の歌」だった。深夜放送でも每晚必ず流れていたと記憶している。あの当時、失われた愛の歌はすべて政治の歌だったと言っても差し支えないだろう。学生運動に熱心だった友人の下宿に電話した時、「いまラジオで「心もよう」がかかっているんだ!」と怒られたこともある。どんな気持ちで聞いていたのだろうか。スマホどころか、CD、いやカセットテープすら無かった時代で、いつでも気軽に聞けるというわけではなかったのだから。

そんなこんなで4時になり、アルバイトに行く者は行き、5限の授業(文学部の2回生向け科目)に出る者は出て、「虹」の一日は終わりを告げた。また明日も同じような一日になるのだろうと思いつつ。

だが、3回生になると、さすがに「虹」に顔を出すことはなくなった。誰もが文学部の建物で、それぞれのコースを歩み出したからである。専攻が異なるため、同じ授業に出る機会もめっきり減った。「虹」の彼方に……やがて私がたどり着いたのは、北白川にある人文科学研究所の附属施設「東洋学文献センター」だった。1980年12月のことである。

東洋学に関する文献情報を提供するセンターは、写真に見えるように、時代の変化に応じて名称を変更してきたが、東洋学、とりわけ中国学に関するレファレンス機関として、相変わらず地道な活動を続けている。時代の変化を端的に示すのは、「文献」が消えて「情報」が名称の主役となったことだろう。実際、今日ではインターネットを通じて各種のデータベースを公開することが、センターの活動の中心となった。世界中の人々に手軽に利用されるようになったという意味では大きな進歩だが、ブラウザ上では文献の手触りや重量感、さらには紙やインクの匂いまで確かめることはできない。そんな要素は文献の解読にとって何の役にも立たないと言われてしまえばそれまでだし、下手をすれば「玩物喪志」に陥る危険性もあるのだが、たとえそうであっても、利用者としての視点に立つのではなく、それが生身でそこに存在するという事実をこだわることは、とりわけ今日の世界のあり方を考える上でも、決してどうでもいいことではないだろう。

この建物は、もともと外務省傘下の東方文化学院京都研究所だった。1894-95年の日清戦争の賠償金で京都帝国大学が創られたのと同じく、1900年の義和団事件の賠償金で創られた組織である(1929年。建物は1930年に竣工)。その場所で中国学の研究をするとはどういうことか——研究の成果のみならず、むしろそれ以上に、研究の心構えを絶えず問われる建物だと言えるかも知れない。スパニッシュ・ロマネスク様式の贅沢な建物に、私は助手・助教授・教授として、通算で29年4か月お世話になり、最終コーナーでなんとか『紅樓夢』の全訳を果たした。今は、いつの日か、拙訳を読むことがきっかけとなり、中国文学などという「ケチくさい」枠を超えて、世界文学における『紅樓夢』の意義を論じてくれる若い人が現れることを、静かに待ち望んでいる。



# 京都大学の思い出

フィールド科学教育研究センター  
瀬戸臨海実験所 准教授  
久保田 信



26年間、京都大学に大変お世話になりました。勤務先は和歌山県白浜町にある瀬戸臨海実験所で、約1世紀になろうとしている実験所の歴史の四分の一をここで過ごせました。このあたりは生物がすくぶる多様で、環境も多彩、風光明媚な場所で、日本最古の白浜温泉も有名です。リゾートタウンながら、潮騒の音を毎日聞きつつ実験所北浜とその直ぐ傍の瀬戸漁港でのフィールドワークの連荘後は温泉入浴の日課です。

実験所にはゲストが多く、海外からもよくお見えになられます。臨海実験所は日本各地に多数あるのですが、大半は僻地の寂し

い所にあり、スタッフ数も少なく、やりくりが結構大変ですが、瀬戸臨海実験所は例外です。実験所附設の白浜水族館では地元の500種の海洋生物を素晴らしい解説つきで飼育展示しているので、それらをざっと観察するだけでも価値があります。以前はここに35万人もが入館しました。その当時はハネムーンのメッカの白浜で、叔父夫婦やお世話になっている先生ご夫婦も来られました。一方、実験所図書室には貴重文献もよく揃っており、各種雑誌が豊富で、研究発表の目標にできました。

この様な瀬戸臨海実験所で小生に課せられた任務はまずは教育で、臨海実習で主に実践しました。理学部生を対象としたカリキュラムから始まり、少人数制の自主的ポケットゼミ(図1)まで、現場で生き生きとした体験学習をしてもらえました。昨今、全国から公開臨海実習となってからは色々な学部や他大学から多くの学生さんが学びに来られ、実験所で学究に勤しむ大学院生の方々や教育拠点教員2名とで賑やかに有効に実施されています。大学生だけでなく、20年も前から近畿圏の優秀な高校の実習も受け入れ、また小・中学生や社会人も指導してきました。都会育ちの皆様方は決まって感動してくれます。自身の平素のフィールド研



図1. 2015年5月のGW中に実施中のポケゼミ  
(白浜町のシンボルアイランドの円月島付近の岩礁で生物観察調査)

究成果を発揮できる教育ですので、一同で、楽しく有意義な実践です。サイエンスカフェなども将来への若者への架け橋です。その一方、白浜町、田辺市、上富田町で、不死のベニクラゲを中心とした海洋生物の講演を一般の方々を対象としてしばしば依頼され、地元のFMラジオにもよく出演して、地域貢献・社会貢献も随分できました。また、年に数回位はTVを主としたマスコミからの取材を受けました。海外からの取材も頻繁で、未だに次々と来所しております。

大事な実習で繰り返し発信している事は、「生命の母なる海には未知の生物が、無数に、多様に、時空的に変化しつつ互いに影響しあい、人類の兄弟姉妹である同朋者として現生144万種44門(教科書的には33門)の動物が暮らしておりますが、各種各個体の一生、配偶子から受精卵・幼生・幼体・成体・老齢体など生活史を常に頭において、個体・種全体・特定地域個体群・地球全生物の現在・過去・未来に思いを十二分に寄せ、食う食われるの關係を通じて種の存続が成立している厳酷な食物網中で、唯一、独立・現存できる人の“おごそかさ”を十分に理解し、人として生まれた幸せを納得するポイント

を心得ておく事こそ各人の人生の根本であり、義務・責任で、これにより「生命の星、地球の未来を必ず明るくできるということにつきます。生命体の研究と応用などは∞ですから、今後は生物学的人生にかけて、めいっぱい親しむ・何か凄いことを究明する等の熱い思いを芽生えさせましょう。生物の様々な秘密を発掘・研究・応用する醍醐味を夢みましょう。学部・学年を越えた交流を継続しましょう。最後に、小生の3大研究テーマを挙げますと、①不死のベニクラゲの若返りのメカニズムの解明とその人類への応用で究極の夢の実現:②造礁サンゴ類等に習い、人工光合成で食糧問題の解決:③南海・東海大地震等の生物を使った予測。

現場から京都に赴いての講義では、片道で特急3時間、バス1時間と、日帰りがとてもきつい赴任当時でしたが、毎週1回通いました。しかし、今やインターネットによるTV講義により体がとても楽になりましたし(2011年に重病を患ってからはなおさら)、重要会議に赴く時間が節約でき、時代の素晴らしい進展には感謝しています。そういえば、赴任時、YS11で白浜空港に着陸しましたが、今やジェット便になったのですから、何もかもが10年一昔とは言えないほどの時代の進化のスピードです。それで、かえて困ったことになったのは、テープやレコードからCDやDVDに10年ほど前に変わったことです。私は教育的な歌も講義や講演等に取り入れているので、69曲で留っていますが(Amazonで入手可能)、時代の流れに沿って鋭意制作してきました。また、本の執筆も赴任以前は全て共著だったのが、2005年から単著で出版することが多くなりました。地元新聞(紀伊民報)への週間連載(12年余り続投中)の纏めとしての出版がきっかけだったのですが、これにもCD/DVDをつけました。これらの書籍と音楽関係の著作は、全作、退職間際まで生協の店頭に並べさせて頂けたことも大変感謝しております。また、京都では生協レストランで栄養バランスのとれた廉価な食事を頂くのも楽しみの一つで、野菜たっぷり、味噌汁・ごはん・おかずでお腹いっぱいにしても700円を超えませんでした。

ところが、時代の流れは思ったよりも早く、ダウンロード時代になりました。昨今は紀南出版とご縁があって、Amazon/Kindleで電子書籍として出版して頂いております。共著の厚い書籍でさえ電子版が出版される時代ですが、お世話になった、あるいはなる予定だった出版社が次々とつぶれる!という信じられないことも起こりました。しかし、古本屋が大好きで、百万遍から理学部・農学部までの道を一店ずつじっくり見て、何かを掘り出す楽しみは格別で、原本をじかに手に取って読むのは格別です。残念だったことは、京大出版会から専門書を纏める話があったのですが、退職までにととうこなせなかったことです。しかし、クラゲとポリプの専門書は3冊を共著・単著(平凡社と紀南出版)で上梓でき、田辺湾を「日本一のクラゲ天国」の解説を十分実施できたことで喜びひとしおです。

海の自然が一番好きでしたが、白浜では以前は毎週末に山登りをしていい汗をかいていました。森林とせせらぎと野生動物、海とは異なる世界が広がります。当センターは森里海連環をうたっておりますが、日本が世界に類ない素晴らしい所故に取り組める課題でしょう。京都では時間がなく、それでも吉田山散策を最も多くして、御所、府立植物園、京都水族館へもよく通いました。繁華街では好きなカラオケを学生さんたちと徹夜でやったことも多々あります。



カット：浅野 純子



図2. 京大最終講義のひとつ  
(2018年2月8日、理学研究科セミナーハウスにて)

京大教員としての様々な活動を広報が数々紹介して下さったのは有りがたい限りでした。「京大先生図鑑」や「ザッツ・京大」等に取り上げて頂け、京大の素晴らしい自由な校風を少しでも世の中にアピールできたのではないかと思います(「ザッツ・京大」で「殿堂入り」を果たせたのも現時点で4万件以上のアクセス数のおかげ様です)。他に書きたい事、特に個人的な事が多々ありますが、もう紙面がなくなりました。最後に、長年、我儘な小生を暖かく見守って下さいました瀬戸臨海実験所の皆様方はもとより、理学部動物学教室・フィールド科学教育研究センター、短い期間でしたが生態研センターの皆様方に心からお礼を申し上げます。この2月8日には最終講義(図2)・懇親会、そして2月22日には瀬戸臨海実験所で送別会までして頂きまして、誠に有難うございました。退職後は、有難いことに、

南紀白浜で、人類の夢をかけ、「ベニクラゲ若返り・再生生物科学研究所-白浜海洋生物実験体験館(仮称)」所長として、益々鋭意努力できますので、今後ともどうか応援等を宜しくお願い致します(2018年2月22日)。

## 定年を迎えられる教職員組合員の皆様へ

京都大学生協同組合専務理事 中島 達弥

2018年春に定年退職をお迎えになられる教職員組合員の皆様、長きにわたる京都大学でのお勤めお疲れ様でした。また、長らく京大生協をご利用いただき、生協運営にご理解・ご協力を頂戴しましたことに心より感謝申し上げます。

今日の京都大学生協同組合は、1949年(昭和24年)5月25日に、戦後3つあった京大の福利厚生組織(大学職員厚生会、職員組合厚生部、学生協同組合)が一つとなって誕生しまもなく70周年を迎えます。その歴史からもお判りいただけますように、教職員の福利厚生の改善が誕生の一つの契機であり、学生協同組合を構成する学生の皆さんも含めた京都大学の構成員の福利厚生を支えることをミッションとしてこれまで事業活動を進めてまいりました。

大学にとって深刻な18歳人口の減少(少子化)は確実に起こる未来予測図であり、この間の国立大学の法人化(京都大学は指定国立大学法人)、大学運営予算の削減、事務機構の見直しなど、「職場としての大学」は目まぐるしく変化しています。このような激変の中で、大学で働く教職員の皆様にとって、大学という場での「人と人とのつながり」(コミュニティ)の在り方は、今後ますます大きく変化していくであろうと思います。そのような中において、「大学生協」の果たす役割は何なのでしょう。商品やサービスの提供を通じて大学運営への貢献はもちろん、(教職員)組合員の皆様に貢献することは、これまで以上に高次で利便性を兼ね備えたものに革新していくことが重要だと考えております。そして、商品やサービスにとどまらない教職員の憩いつながり・コミュニケーションの場としての役割は、なお一層重要なものになっていくのではないかと考えております。諸事多忙な教職員の皆様に役立つ「やわらかい」生協、「居心地の良い」生協になるよう今後の生協運営を進めてまいりたいと思います。

あらためまして、これまでのご利用に感謝申し上げますとともに、これからも温かい眼差しで京大生協をお見守りいただきますようお願い申し上げます。ご自愛いただき、ますます健康にご活躍されますことをご祈念申し上げます。

ありがとうございました。



# 京都大学在任時の思い出

理学研究科附属地球熱学研究施設 教授  
竹村 恵二



改修が済んだ地球熱学研究施設(2011年)

1971年4月に京都大学に入学して、一度も京都大学から離れることがなく、2018年3月末に退職を迎えます。年が明けて、生活協同組合から退職にあたり、「京都大学在任時の思い出」を寄稿してほしいとの依頼がきました。永らくお世話になった生協からの依頼なので、研究とは違った面での思い出を綴ってみることにさせていただきます。

1971年4月に京都大学理学部に入学しました。当時の時代背景として、1970年は大阪万博の開催や、1970年秋には三島由紀夫が自決したことも大きな話題でした。また1971年4月には、東京の美濃部都政、大阪の黒田府政、京都の蛸川府政が並んだ年でもあり、大学では、学生運動が大きいうねりをみせ、東京大学の入試が実施されないことも起こりました。

入学の手続きには、1万円をもって本部時計台の経理の事務室に出向きました。1万円とは、入学金4千円、前期分の授業料6千円の合計額です。私の子供たちにかかった学費と比較して、現在とは雲泥の差であることを考えさせられる相違です。

生協には多くの思い出があります。まず、入会金。入学当時は7口2,800円だった記憶があります。この生協組合証は、現在のカードに移行するまでいつも大事に私のそばにありました。一度も紛失しなかったと思います。これも現在の入会の基本額とは相違があるに違いないでしょう。47年も前の話ですから。



1986年の地球物理学研究施設



1976年の地球物理学研究施設(竹村撮影M1)



ライトアップ(最近の施設公開時)

また、生協の食堂は重要な食生活の基礎として、愛用させていただきました。3回生以降現在でも、特に新旧の北部食堂を利用することが多かったのですが、新旧の旧教養部(吉田南構内)、西部構内、本部構内の生協食堂も時期に応じてお世話になりました。特に、遠隔地からの出張時や単身赴任時には、便利で安価な食生活の重要なパートナーとなってきました。生協は、すぐ近くにある物品・書籍購入の場として、多くの利便性を与えてくれました。校費や科研費での購入時の経費書類等も迅速に処理することができて、助かった記憶があります。また、旅行への対応やレンタカーの使用にあたっての手続き等でも大いに助けられたことを思い出しています。

現在の社会は、入学時の47年前のアナログの時代から、デジタルの時代へ、また「アプリとサブスクリプション」が社会にたくさん広がっている時代へと大きな変貌を遂げてきました。私がつまずきわって来た地球科学という学問も同様に影響を受けてきました。

京大生協もこの47年の間に、社会の中で大きく変遷を余儀なくされてきたと思います。大学生協ですから、大学の中で、どのように生協を継続することが今後のあるべき姿かを考えていかれることを期待し、教職員・学生等への利便性も含めて、寄り添った有意義な活動となることを期待して、退職にあたっての感謝と思い出の言葉とします。

# 生協書籍部での出会い

人間・環境学研究科 教授  
田村 類

のんきに過ごした理学研究科化学専攻の院生時代の5年間(1975~1980年)は、私にとって掛け替えのない時間となり、以後の人生に大きな影響を及ぼしたと思っています。当時、京大生協は私の生活の一部であり、北部食堂・時計台地下書籍部・中央食堂・西部レコード店のどこかに日々出没していました。奨学金が出るとまず下宿代を払い、次ぎに餓死しない程度の一か月分の生協食券を購入し、まだ余裕がある時には目をつけていた書籍やレコードを購入して、私なりに優雅な時を過ごすことができました。また、今の学生の方々には想像がつかないと思いますが、当時の英語論文作成には電動式タイプライターを使い、和文の学会要旨は万年筆での手書きで、スライド原画作成はロットリングペンとステンシルを使う手作業でした。その上、論文投稿や学会の要旨提出の手段は、外国へは航空便そして国内では郵便書留でしたので、全体的にゆったりと時間が流れていました。実験の合間に、日中は農学部グラウンドでのソフトボールで運動不足を解消したり、夜は雀荘での時間潰しが当たり前の時代でしたので、研究室間の学生の人的交流も盛んで、この頃にできた人脈は今日では大きな財産となっています。

1977年に、たまたま夕暮れ時に散歩で訪れた大徳寺の某塔頭で住職と話しているうちに、寺に居候することになり、結局半年間お世話になりました。日課の苔庭の掃除や朝食・夕食時に、住職や同居していた神学部の学生やインド哲学部の院生から宗教と仏教哲学の初歩的な話を聞かせてもらったことが懐かしく思い出されます。これが仏教哲学に触れた最初であり、自分なりに自然科学との接点を考えるきっかけとなりました。当時(今もそうですが)、将来、研究者として立ち立たなければ、大学院修了後に、自分の学生時代の研究とは異なる新しい研究領域を若くして開拓することが必須でした。このため、将来は仏教哲学と化学が結びつくような研究領域を開拓できないものかと漠然と考えたことを覚えています。

博士課程修了後(1980年)は、片道切符で米国の大学へ博士研究員として渡りました。当時、米国内のトップ20に入っていたコロラド州立大学とプリンストン大学の化学科でお世話になりました。しかし、日本の有機合成化学はすでに米国のレベルに達しており、新研究領域を開拓するためには、さっさと日本に戻った方が得策ではないかと思いました。運よく3年後に日本の大学の助手として就職し、その後二度大学を移り、1997年に京大人間・環境学研究科の助教授として着任しました。

その数年前から有機合成化学から有機結晶化学への専門分野の変更を模索し、その結果、あるキラル有機医薬品化合物が革新的な自然光学分割現象[優先富化現象(Preferential Enrichment)と命名]を起こすことを、製薬会社の研究員の友人との共同研究で偶然発見しました。しかし、当初その発現メカニズムは皆目見当が付きませんでした。ある日、生協書籍部で偶然見つけたM. M. Waldrop 著「複雑系」を読んで、どうやら非平衡・非線形の複雑系現象が起こったに違いないと目星がつかまりました。その後、「過飽和溶液からの結晶化の過程で起こる相転移が引き金となってキラル対称性の破れが発現する複雑系現象」であることを証明することができ、偶然の発見が必然的現象に深化しました。現在では、この現象には一般性があり、必須アミノ酸や他のキラル有機医薬品化合物にも適用できることがわかってきました。これでやっと、インド哲学と化学の接点を見出すことができたと思っています。インド哲学は宇宙の起源を知ることが目的とした学問であり、空(ゼロ)からインフレーションとビッグバンを経て、「相転移」と「対称性の破れ」の繰り返しによる宇宙創成のメカニズムを説明する、原子論・相対性理論・量子論・複雑系理論の要素をすでに含んでいることが知られており、インド哲学=複雑系理論とも言えるようです。

複雑系や対称性に関する書籍出版数の増加に伴い、ルネ書籍部の関連書籍の陳列数も年々増えてきました。書籍のネット販売の普及の影響で、市内の書店が相次いで閉店していますが、京大生協には今後も既刊の名著や新刊書の陳列販



売を継続していただきたいと思います。また、理系の学生の皆様には、何か不思議な現象を発見した時には、書籍部で異分野の本を手にとることをお勧めします。何かヒントが得られるかもしれません。最後に、学生そして教員として計26年間京大生協にたいへんお世話になりました。厚く御礼申し上げます。



(前列左から)伊藤・開・田村・石川、(中列左から)川合・吉村・斉藤・山岸・神谷・杉原、(後列左から)采女・中山・小柳・林・矢吹

1975～1980年間に理学部化学科有機合成化学研究室(加治有恒教授主宰)に在籍した同窓生有志による慰労会  
(2018年2月17日、木屋町二条にて)

a Cup  
of  
Tea 



Jun.

# 京都大学在任時の思い出

総務部人事課人材育成室長  
岡田 智恵美

京都大学には平成10年に滋賀医科大学から転任して早20年余り、長いようで短いそんな日々の繰り返しの中に言葉では言い表せないほどの思い出が走馬灯のように駆け巡っている。

今年度、最後の一年になったとき、人事課への異動で、今までと同様に仕事をこなしていくことに少し戸惑いがあり、最後の一年をどのように過ごす?のか。どのように考えて仕事を進める??のか。4月を迎えたときも自分の立ち位置に戸惑っていた。そんな中、人事課の有志の方から私の誕生日に赤いショールをプレゼントしてもらった。この年の誕生日、すっかり忘れていた。改めて自分の誕生日を思い出し、こうやってお祝いしてもらえる幸せを感じ、目頭が熱くなった。職場でのこんなサプライズはもうないと思うとともに、自分のできることを一生懸命頑張るだけと心に決めた。



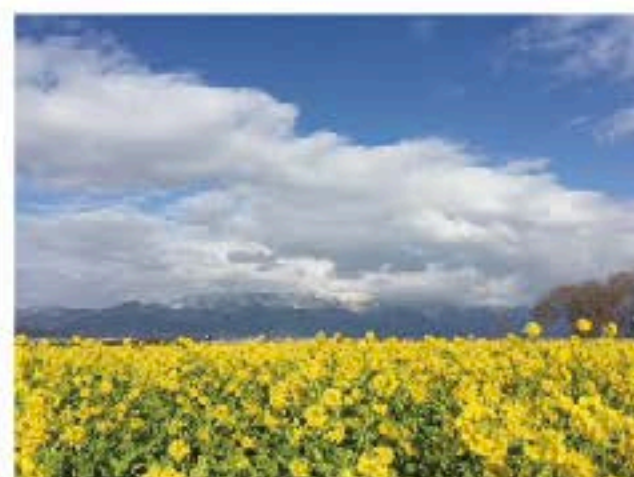
ふと、平成10年4月に京都大学に異動した時、当時の人事課長から「まあ適当にやってくれ」と面白い印象的な激励?を受けたのを思い出した。退職金と年金、ひたすらその計算に明け暮れた。当時は毎月人事データのチェックを人事課全員で行ったこと、その日の帰りは日付の替わる時刻に近かったように思う。しんどかったけど若かったし、一つのことをみんなで行えることに連帯を感じ、役にも立たない私が、変に興奮していたのが思い出され、改めて中核の大学に勤務していることを感じた。

多くの部局を回ったとは言えないが、それでもその部局の人たちと知り合えたことが、私の宝物の一つになっている。京都大学に来なかったら、いろんな人たちとも知り合いになれなかったし、課長にもなれなかったと今更ながらに思う。女性の数少ない管理職として、日々迷いながら上司や部下に支えてもらいながら今日まで過ごしてきた。もちろん、上司から叱られたことも数多くあるし、苦情の電話を受けて何時間も対応して納得してもらったことも今となっては、良い思い出となっている。

若い女性職員の良いお手本になれたかどうかはわからないが、「この人が管理職としてやってこられたなら、私もできる」と考えてもらいたい。子育て中の奮闘もよくわかるが、人生の中の一時と思う。私は子育てを楽しむ術を考えなかったが、しんどいと思うより一時の我が子の成長を楽しんでもらいたい。独身の人や子供のいない人などさまざまな人生はあるが、それぞれ自分の人生を大切に楽しんで生きてもらいたいと切実に思う。なぜなら、同僚を亡くしたことがあり、今でもその人のことを時々思い出しては、故人にそっと「今日は、晴れて気持ちのいい朝だよ」などと声をかけている。ずっと忘れてはいけない、心に留め置いておくと自分に言い聞かせている。

ところで、せっかくなので書き留めておきたいことがある。

私は隠れブチドナルドダックファンである。このところ毎年のようにディズニーランドに遊びに行っているのだが、2016年12月、ディズニーシーに遊びに行ったとき「開園のお手伝い」と称して、開園時間になるとエントランスのゲストに向かってミッキーマウスとドナルドダックと一緒に、開園の合図を送るオープニングセレモニーに参加した。ステージ上でミッキーとドナルドと一緒に片腕を空高く上げて、7回ぐるぐる回す。言ってみればそれだけの話だが、後で調べてみると一日一組だけのお手伝いであり、シー



には1日約7万人の来園者があるのだが、その時はシーが開園15周年という節目の時でもあり、7万人以上のゲストの中から1日1組に選ばれて幸運な時間を過ごすことができた。本当にラッキーだった。恥も外聞も殴り捨て、孫のサリーの帽子をかぶり親子三代で参加した。最後はドナルドとの真剣ハグ!!本当に嬉しかった。もちろん、ミッキーとドナルドと一緒に写真も撮ってもらい、長い間携帯の壁紙がドナルドとのハグの写真になっていたということは言うまでもない。



最後に変な話になってしまったが、子育てが終わり、ディズニーランドやシーに遊びに行ける。これが、私の今のストレス発散方法かもしれない。これからも、上手くストレスと付き合って元気に仕事を継続することができたら、これ以上の幸せはないと思っている。

これからも常に心がけていくことは、誰に対しても心から挨拶をすること。守衛さんにも清掃の方にも、そして職場や顔見知りの人にも、声をかける。加えて「栄枯不足論」を肝に命じて、残りの人生を楽しみたいと心から願う。

最後に2月に女性管理職の皆さんが開いてくれた送別会、まだまだ数少ないけれど女性管理職だけで開催できる人数になったと、心よりうれしく、今後も応援していきたいと思います。今までお世話になった方々、本当にありがとうございました。この場をお借りしてお礼を申し上げますとともに、今後の皆様のご活躍をお祈りしています。

## 春夏秋冬

京大生協教職員委員会委員長 今山 稲子

春夏秋冬、何事にも節目というものがありますが、皆様の人生の中の一つの「節目」に感謝と寿ぎの言葉をお贈りいたします。

1月下旬、「教職員情報」の取材で白浜の瀬戸臨海実験所図書室を訪問させていただきました。普段メールや電話でしか接触のない白浜の図書室・興田さん、久保田先生、大和先生方と直接会ってお話できたのは貴重な時間でした。パソコンを使ってメールも文書も添付で送れたり便利で効率的な時代にはなりましたが、名前や声は知っていても顔も知らないままに「定年退職」なんて寂しすぎます。広い京大の中ではありがちなことなのかもしれませんが、少なくとも自分の周囲でお世話になっている方たちとは、「顔の見える」関係であり続けたいと思います。

今号のテーマ「春宵一刻」は、『紅樓夢』研究の第一人者・井波先生の前ではお恥ずかしい限りではございますが、続く言葉こそ皆さまが京都大学で過ごされたひとときであるように思われます。



不要となった本をお譲りください

# あなたの本が寄付になります

長年にわたるお勤めの中で、さまざまな書籍類のお世話になったことと思います。自らの職業人生活と共にあったそれらを捨てるのはしのびなく、定年を控え、いざ引越しや大掃除に追われる段になって、処分に悩まれる方も多いのではないのでしょうか。そんな今こそ、「本de募金」をご利用いただきたいと思えます。これは、皆様にご提供いただいた本類の買取金額が、京都大学基金に寄付される仕組みです。いわば「本でできる新しい寄付のカタチ」。本が無駄にならず、手間もかからず、京都大学の教育・研究活動の支援にもつながります。4月15日までは「春のご卒業・お引越しキャンペーン」を実施中です。期間中は通常より買取額が10%UPとなるため、京都大学基金への寄付額が多くなります。

京都大学で過ごされた日々をひと区切りをつけ、新たな生活を始められるに際して、ぜひ本de募金にご協力ください。

## お申し込み方法

段ボール箱に本類を詰め、電話またはホームページでお申し込みいただくと、ご指定の時間に宅配業者が伺います。本など5点以上で送料無料です。

### ▶電話でのお申し込み

寄付申込書にご記入のうえ、本とともに段ボール箱に入れ、提携会社バリューブックス(0120-826-292)にお電話ください。寄付申込書は本de募金ホームページからダウンロードいただくか、京都大学基金事務局までご請求ください。

### ▶ホームページでのお申し込み

申込画面に必要事項を入力ください。段ボール箱への寄付申込書の封入は不要です。

<http://www.hon-de-bokin.jp>



### 「本de募金ステーション」もご利用ください

申し込み手続きが不要で、無記名にてご利用いただける回収BOXを、大学構内の53カ所に設置しています。設置場所は本de募金ホームページをご覧ください。

## 京都大学と皆様をつなぐ一枚 京都大学カード

京都大学と三井住友カード株式会社との提携により発行しているクレジットカードです。ご利用いただいた金額に応じた手数料が京都大学基金に還元されます。

学生や研究への支援に“つながる”、そして京都大学と皆様を“つなぐ”この一枚。同窓生や教職員はもとより、広く一般の方々にもご加入いただけます。皆様にご愛用いただけることを願っています。

インターネットからも入会申込が可能ですので、詳しくは京都大学カードホームページの「オンライン入会申込」をご覧ください。<http://www.kucard.kyoto-u.ac.jp>



## 京都大学カードオリジナル特典

- 京都大学総合博物館・白浜水族館の観覧無料
- 京都国立博物館の観覧料割引
- 奈良国立博物館の観覧料割引
- 京都国立近代美術館の観覧料割引
- ワタベウェディングの優待サービス
- 山ばな 平八茶屋の食前酒サービス
- リーガロイヤルホテル京都の優待サービス

※詳細はホームページをご確認ください。

●お問い合わせ先

京都大学渉外課基金室

TEL.075-753-5562 FAX.075-753-2211 <http://www.kikin.kyoto-u.ac.jp>





花山天文台長 柴田一成

## 星空に夢とロマンを

4月から毎月1回  
天文台基金観望会を開催いたします。

京大天文台支援のご寄付（天文台基金）をいただいた方を対象に4月24日（火）19時～21時に花山天文台で観望会を開催いたします。5,000円以上のご寄付をいただいた方をご招待いたします。加えて今回からは、ご寄付いただいてない方でも、3,000円の参加協力金でご参加していただく事にいたしました。（以後5月21日、6月20日に実施予定です）



45cm屈折望遠鏡

- 内容**
- ・花山天文台にある国内で3番目の大きいレンズを持つ45cmの屈折望遠鏡で野上准教授の指導で月の観測（写真や、絵葉書で見るよりとてもきれいに見えますよ）
  - ・柴田台長の太陽や宇宙に関するミニ講演会（茶菓子つき）

天文台は、秋を中心に、年1回の特別公開（11月3日）や、宇宙落語、喜多郎さんを迎えての10月の野外コンサート、毎回好評の金曜天文講座等様々な企画を行っております。

また、満月だとクレーターに影ができないので月の観測には、半月ぐらいがいいそうです。

4月、5月は月と木星が、8月は火星と土星がきれいに見えるそうです。

毎月出かけても楽しめますね。

宇宙から地球が青く見えるのは、大気と海の色が青いから。海が青いのは太陽光に含まれる赤い成分の光を海が吸収してしまうから。空や大気が青いのは太陽光に含まれる青い成分の光を散乱するからだそうです。



45cm屈折望遠鏡で見た月の写真

花山天文台の将来を考える会の発起人メンバーの京都精華大学教授竹宮恵子先生が、天文台とテラをコラボした絵葉書を作成してくださいました。きれいなタッチで宇宙への夢が広がります。5枚セット販売を予定しています。乞うご期待ください。



基金観望会の申し込み先は  
<http://www.kwasan.kyoto/index.html>  
天文台基金へのご寄附は  
<http://www.kwasan.kyoto-u.ac.jp/kikin/>

柴田台長より 🌙

花山天文台は、京大吉田キャンパスからでも車で20分余り、京阪三条駅からでも10分余りのところにあります。市内にいなから45cmの屈折望遠鏡で月や惑星が観られるのは大変珍しい場所です。昼間でも運が良ければ太陽フレアをみることができます。

いろんな企画を検討していますがなかなか実現には至っていません。皆様が、花山天文台に足を運んでいただいたり、ご寄付いただく事で前進していけると考えています。ぜひ、ご協力の程お願いいたします。応援してください。

## 京大俳句会

### 「京大俳句会」句会（優秀句）

第107回 (2018.1.27) いきいき市民活動センター

噴き上がる鏡に黒き雪煙 幸男  
封切りし手拭の香や初稽古 水澄子  
酒蔵の男柱や寒造 正臣

第108回 (2018.2.24) いきいき市民活動センター

体内に鳥の名一つ啄木忌 幸夫  
年の豆千手観音揃み合い 幸男  
春愁やガラスのかけら踏むまじと 吟

### 「京大俳句会」句会のご案内

#### 第109回句会のご案内

日時：2018年3月24日(土) 13:00~16:00  
[吟行 12:00 ~ 12:45]

場所：京都嵯峨「落柿舎」

☎075-881-1953

<現地集合>

参加費：¥500 + 席料 ¥700

句会後に懇親会有り

\*俳句は有季定型・無季定型・自由律と形式は問いません。

\*3句を用意してください。欠席投句は1句です。

\*参加者は2日前までに下記に連絡してください。

京大俳句会

夜汽車 (携帯) 090-2040-4123

宮本武史 (メール) mytanbi@leto.eonet.ne.jp

まめ (メール) cupid.and.psych@docomo.ne.jp

### ■京大俳句会よりお知らせ■

俳句会の会報「自由船」復刊第2号出来ました。

ご希望の方は、生物科学図書室もしくは  
メールアドレス

mytanbi@leto.eonet.ne.jp (宮本)

までお問い合わせください。

無料配布中です。



110回以降の詳細は「京大俳句会 自由船」のブログ

<http://blog.goo.ne.jp/jiyuu-sen>

をご覧ください。

## NPO法人科学カフェ京都 定例会のお知らせ

第149回

日時：3月10日(土) 午後2時~4時30分

話題：音楽の音響学

提供：糸岡 晃(立命館大学工学部講師)

専門：電子工学

会場：京都大学 理学研究科セミナーハウス

第150回

日時：4月14日(土) 午後2時~4時30分

話題：重力波天文学の夜明け

提供：佐々木 節(京都大学名誉教授)

専門：相対論、宇宙論

会場：京都大学 理学研究科セミナーハウス

第151回

日時：5月26日(土) 午後2時~4時30分

話題：人の視知覚と身体姿勢

提供：東山 篤規(立命館大学特任教授)

専門：実験心理学

会場：京都大学 理学研究科セミナーハウス

どなたでもご自由に参加歓迎、  
無料、申し込み不要です。  
みなさんお待ちしております!!

NPO法人科学カフェ京都 代表者：糸岡 晃 <http://cs-kyoto.net/>

学内問い合わせ先：栗田光樹夫、宇宙物理学教室：mikio@kusastro.kyoto-u.ac.jp

## 生協からのご案内

京大生協への  
ご加入はお済みですか？

生協加入のメリット

1 書籍、CD/DVDは  
10%OFF

2 職員証を使って  
生協電子マネー  
(プリペイド)が使用可能。

3 利用に応じたポイント還元!  
貯まったポイントは  
1ポイント=1円として使用できます!



学内に日常的に通勤される常勤・非常勤職員の方はもちろんのこと、  
共同研究等で定期的に来学される他大学や民間企業の方でもご  
加入いただけます。

## 編集後記

今年も5名の方々にご協力いただき、「教職員情報特別号」を発行することができました。  
お忙しい中、ご寄稿いただきましたこと誠にありがとうございました。  
また、京都大学ご在職中の京大生協へのご支持、ご支援ありがとうございました。  
これからもどうかよろしく願いいたします。  
春は、別れ、出会い、様々な思いが交錯します。新たな旅立ちがみなさまにとって豊かな  
ものになりますよう祈念いたします。

(吉川美重子)

**フィールド科学教育研究センター  
＜瀬戸臨海実験所 図書室＞**



白浜図書室建物

**瀬戸臨海実験所図書室は、**  
自然豊かな和歌山県白浜町の、フィールド科学教育研究センター  
瀬戸臨海実験所内にあります。

瀬戸臨海実験所は、1922年（大正11年）に、京都大学理学部附属  
瀬戸臨海研究所として開所された歴史の長い実験所です。敷地内には、  
研究棟、白浜水族館、図書室、宿泊棟、職員・学生の宿舎、白  
浜海の家（学生部の管理）等があります。

白浜水族館は、実験所周辺の海岸・海中の豊富な生物の展示をし、  
有料で一般公開もしています。

**図書室の役割**

実験所の教員や院生のための研究用の図書室ですが、学内外の外来研究者  
による研究の拠り所としての役割も担っています。

当然ながら、海洋生物学関連書籍が多数を占め、蔵書数は、資産登録され  
ているもので5,400冊余り。内、洋書が4,500冊以上を占めます。

雑誌は、2018年1月現在、洋雑誌1736タイトル、和雑誌859タイトルです。

毎月入荷する雑誌については、閲覧室に掲示し一目でわかるようにしています。

水族館がある関係で、博物館協会にも所属しており、そちらからの情報も豊富です。

デジタル化が進み、文献複写等も容易にできるようになってはいますが、紙で調べることも大事ではない  
かと思います。



書庫

**ここにしかないお宝**

海洋探検報告と、無脊椎動物分類学の関連文献が充実しており、特に海洋  
生物関係の雑誌を多く取り揃えています。

海洋探検報告は詳細な絵入りで、19世紀後半からのヨーロッパ各国の探検  
航海の記録として大変貴重なものとなっています。

書庫は1960年代の建築で、収容力を増やすために変則的な2階建てとなっ  
ています。検索に夢中になって、思わずおでこをぶつけてしまう事もありま  
すのでご注意ください。

また初代所長の駒井卓先生を初めとして、歴代の教員が寄贈された文献等もまとめて所蔵されています。



探検航海報告

**Publications of the Seto Marine Biological Laboratory**

1949年に創刊された、海洋生物学に関する学術論文を掲載する英文定期刊  
行物です。他所の刊行物と交換のみで配布する非売品となっています。所内  
に限らず海外からも投稿があり、情報交換の貴重な資料として作成されてい  
ます。

\*遠隔地の図書室ですが、白浜にお越しの際は、白浜水族館共々図書室にも  
足を運んでいただけましたらうれしいです。



新着雑誌

- ＜開室時間＞ 平日 9:00～12:00、13:00～17:00
- ＜休室日＞ 土日祝日・創立記念日(6/18)・年末年始(12/28～1/4)  
その他臨時に閉室あり（来館の際には事前に電話で確認してください）
- ＜貸出冊数＞ 所外の学内の方：図書3冊/30日

特別号  
「春宵一刻」

ホームページアドレス <http://www.s-coop.net>

(学内の残したい風景 募集します)



残しておきたいキャンパス風景  
「白浜水族館」

第七回

### 京都大学白浜水族館

京都大学フィールド科学教育研究センター 瀬戸臨海実験所の附属施設で、1930年に開館しました。日本では数少ない大学附属の水族館です。また、日本の水族館で三番目に古い歴史を持っています。



大水槽：大型回遊魚とサメ類

## 出資金返還・ 組合員資格 更新のご案内

京都大学を離られる組合員の方は、  
京大生協の脱退手続きが必要です。

お預かりしている出資金を返金いたします。



引き続き当生協の利用を希望される場合、  
「退職教職員」として組合員資格を継続することが可能です。  
(当生協約款第6条に基く)

階層変更手続きが必要です。手続きは各購買  
店舗にて承ります。生協組合員証(組合員証  
番号がわかるもの)をご持参ください。



西部会館ルネ (外線) 752-1587 (内線) 7632	吉田ショップ 753-7633 7633	北部購買 752-1586 7635	南部生協会館 752-1586 7635	時計台生協ショップ・時計台旅行センター 753-7630 771-6289 7630 7639	宇治生協会館 0774-38-4388 17-4388	桂ショップ 383-7300
ブックセンタールネ 771-7336 7631	洋書 751-6183 7631	PCセンタールネ 753-7636 7636	コンベンション サービスセンター 753-7655 7655			